

ハンドヘルドレーザースキャナ MS837

ユーザーマニュアル



取扱説明書 日本語版

Version 2.1

改訂履歴

Version	発行日	改訂履歴
2.0	2017 年 1 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> ● 各項目に対して説明文章を追加しました。 ● RS232 用の設定項目を追加しました。
2.1	2017 年 7 月 4 日	<ul style="list-style-type: none"> ● 読み取りにくい Codabar 設定を追加しました。

本マニュアルについて

本マニュアルは、ハンドヘルドレーザースキャナ MS837 のインストール、操作、そして保守方法について説明しています。

本書のいかなる部分もユニテック社からの書面による許可なしで、いかなる形式でも、電子的あるいは機械的を問わず複製することはできません。これは、 photocopy、レコーディング、あるいは情報の保存と検索システム等の電気的もしくは機械的な方法を含んでいます。

本書の内容は予告なく変更することがあります。

©Copyright 2017 Unitech Electronics Co., Ltd. すべての著作権は Unitech 社が保有しています。

Unitech グローバル Web サイトアドレス: <http://www.ute.com>

ユニテック・ジャパン Web サイトアドレス: <http://jp.ute.com>

各認証について

電波障害自主規制

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCC I – B

RoHS について



本装置は欧州連合の規定である電子機器で使用される有害物質の含有についての制限（Reduction Of Hazardous Sub-stances、RoHS）に適合しております。

レーザー情報

ユニテック製品は、DHHS/CDRH 21 CFR サブセクション J の要件および IEC 825-1 の要件に適合するように米国で認定されています。クラス II およびクラス II の製品は危険でないとみなされます。ユニテック製品には、上記規則に記載されている最大限度を超えない可視レーザーダイオード（VLD）が内部に含まれています。スキャナは、通常の操作、ユーザーのメンテナンス、または所定のサービス操作中に有害なレーザー光に人が触れることがないように設計されています。

ユニテック製品のオプションのレーザースキャナーモジュール用に DHHS/IEC が要求するレーザー安全警告ラベルは、装置の背面または製品ラベルに付随して表示されます。

注 レーザー情報は、レーザー部品が付いた製品にのみ適用されます。

注意！ 本書に記載されている以外の操作、調整、操作を行うと、危険なレーザー光が発生する可能性があります。双眼鏡、顕微鏡、拡大鏡などの光学機器を用いてレーザー光を観察すると目に危険を及ぼす場合があります。これには、ユーザーが装着した眼鏡は含まれません。

LED 情報

ユニテック製品には、通常の操作、ユーザーのメンテナンスまたは所定のサービス操作中に、人の目に有害でない輝度の LED インジケータまたは LED リングが含まれています。

注 LED 情報は、LED 部品を搭載した製品にのみ適用されます。

製品の操作および保管について

ユニテック製品は、適切な操作および保管温度条件下で動作するように設計されています。故障、損傷、誤動作を防ぐため、推奨温度条件下に従ってください。

注 適用される温度条件については、各製品の仕様を参照してください。

電源アダプタ情報

1. ユニテック製品を充電しない状態で電源アダプタをソケットに接続したまま放置しないでください。
2. バッテリーが満充電になったら電源アダプタを取り外してください。
3. ユニテック製品に同梱されている電源アダプタは、屋外での使用を目的としたものではありません。水や雨にさらされる環境、または非常に湿度の高い環境では、電源アダプタとその製品の両方が損傷する可能性があります。
4. 同梱された電源アダプタまたはオプションの電源アダプタを使用してユニテック製品を充電してください。間違った電源アダプタを使用すると、製品が損傷する可能性があります。

注 上記のメッセージは、電源アダプタを使用する機器にのみ適用されます。

保証期間

当社の保証は、以下の保証期間中に通常の使用状況で発生した故障に対して適用されます。

- スキャナ本体 — 1 年間
- その他アクセサリ類 — 3 ヶ月

保証は、機器の改造、不適切な取付や使用、事故または不注意による落下等における損傷、あるいは何らかのパーツが不適切に取り付けられていたり、もしくはユーザーによってパーツを交換されていたりした場合は対象外となります。

付属または当社製のアダプタのみ使用してください。間違ったアダプタを使用すると、機器に損傷を与えるだけでなく保証も無効になります。

目次

1. パッケージ情報.....	11
2. 設定方法メニュー.....	12
2.1. 設定方法について.....	12
2.2. 設定値一覧.....	13
2.3. システム設定.....	21
設定値の初期化.....	21
設定バーコード.....	21
シリアル番号送信.....	21
インターフェース.....	21
スキャンモード.....	21
自動スキャン.....	22
冗長読取り.....	22
スキャンバッファ.....	23
同一バーコードチェック.....	23
同一バーコードタイムアウト.....	24
LED オプション.....	24
ブザーオプション.....	25
音調変更.....	25
特殊音調.....	25
ショートブザー.....	25
アドオンブザー.....	26
BEL コマンド.....	26
レコードカウントキャプチャ.....	26
2.4. RS232 設定.....	27
通信速度（ボーレート）.....	27
パリティ.....	27
データビット.....	28
ストップビット.....	28
ハードウェアハンドシェイク.....	28
RTS/CTS.....	28
DTR.....	28
XON/XOFF.....	29
ソフトウェアハンドシェイク.....	29
ACK/NAK.....	29
2.5. データ出力設定.....	30
国コード選択.....	30
文字間送信遅延.....	31
ユーザー定義の文字間送信遅延.....	31

データ間送信遅延.....	32
ユーザー定義のデータ間送信遅延	32
データ間送信遅延中のレーザー照射	32
すべて小文字で出力	33
ALT モード	33
テンキーパッド送信	33
拡張キーコード送信	33
すべての先頭 0（ゼロ）を削除.....	34
文字置換	34
コントロールセット	35
コントロールセット	35
2.6. プリフィックス/サフィックス.....	37
概要.....	37
定義済みプリフィックス	38
STX プリフィックス.....	38
HT プリフィックス（TAB）	38
AIM ID 文字.....	38
定義済みサフィックス	39
HT サフィックス（TAB）	39
CR サフィックス（Enter）	39
LF サフィックス.....	39
ETX サフィックス	39
ユーザー定義プリフィックス.....	40
ユーザー定義サフィックス.....	41
2.7. バーコード設定.....	42
すべてのバーコードの可読最小長	42
すべてのバーコードの可読文字数固定	42
指定バーコードロック	43
マルチフィールド読取り	45
UPC/EAN/JAN	49
UPC-A の読取り	49
UPC-E の読取り.....	49
EAN-13/JAN-13 の読取り	49
EAN-8/JAN-8 の読取り	49
UPC-A ナンバーシステム	50
UPC-A メーカーコード	50
UPC-A アイテムコード.....	50
UPC-A チェックデジット	50
ゼロから始まる JAN-13 の読取り	50
UPC-A を EAN-13/JAN-13 に変換.....	50
UPC-E 先頭ゼロ.....	51
UPC-E チェックデジット	51
UPC-E を 12 桁に拡張.....	51
EAN-13/JAN-13 チェックデジット	51






EAN-8/JAN-8 チェックデジット	51
EAN-8/JAN-8 を EAN-13/JAN-13 に変換	52
GTIN フォーマット	52
2 桁アドオンコード	52
5 桁アドオンコード	52
2 桁アドオンチェック	52
5 桁アドオンチェック	53
アドオンコードの要求	53
アドオンコード確認	53
JAN-13 のアドオンコード確認	53
アドオンコード読取りブザー	53
979 アドオンモード	54
978 アドオンモード	54
977 アドオンモード	54
37x/41x/43x/UPC5 アドオンコード	54
378/379 アドオンモード	55
414/419 アドオンモード	55
434/439 アドオンモード	55
UPC ナンバーシステム 5 アドオンモード	55
ISBN 979	56
ISBN 978	56
ISBN チェックデジット	56
ISBN 規格	56
ISBN 再フォーマット	56
セグメント化された UPC デコード	57
Codabar (NW7)	58
Codabar の読取り	58
Codabar 連結送信	58
Codabar スタートストップ文字	58
Codabar スタートストップ文字種	58
CLSI フォーマット	58
Codabar チェックデジット (モジュラス 16) の検査	59
Codabar チェックデジット (セブンチェック) の検査	59
Codabar チェックデジットの送信	59
読み取りにくい Codabar	59
Code128	60
Code128/GS1-128 の読取り	60
GS1-128 コード ID の送信	60
Code128/GS1-128 グループセパレータ	60
Code39	61
Code39 の読取り	61
Code39 チェックデジットの検査	61
Code39 チェックデジットの送信	61
Code39 スタートストップ文字	61

Code39 フル ASCII.....	61
Code32 の読取り	62
Code32 の要求.....	62
Code32 プリフィックス	62
Tri-Optic Code39 の読取り	62
Code93.....	62
Code93 の読取り	62
Code11.....	63
Code11 の読取り	63
Code11 チェックデジットの検査	63
Code11 チェックデジットの検査 (10 文字以上)	63
Code11 チェックデジットの送信	63
Interleaved 2 of 5 (ITF)	64
Interleaved 2 of 5 の読取り	64
Interleaved 2 of 5 チェックデジットの検査	64
Interleaved 2 of 5 チェックデジットの送信	64
Interleaved 2 of 5 可読最小長	64
Interleaved 2 of 5 可読文字数固定	65
Standard 2 of 5 (Industrial 2 of 5)	66
Standard 2 of 5 の読取り	66
Standard 2 of 5 可読文字数固定	66
Matrix 2 of 5.....	67
Matrix 2 of 5 の読取り	67
Matrix 2 of 5 チェックデジットの検査.....	67
Matrix 2 of 5 チェックデジットの送信.....	67
Hong Kong 2 of 5 の読取り	67
Airline 2 of 5 (IATA)	68
15 桁 Airline 2 of 5 の読取り	68
13 桁 Airline 2 of 5 の読取り	68
MSI Plessey	69
MSI Plessey の読取り	69
MSI Plessey チェックデジットの検査	69
MSI Plessey チェックデジットの送信	69
UK Plessey	70
UK Plessey の読取り	70
UK Plessey チェックデジットの送信.....	70
UK Plessey [A]を[X]に変換.....	70
Telepen	70
Telepen の読取り	70
Telepen フル ASCII フォーマット	70
GS1 DataBar (旧 RSS)	71
ダブルボーダー要求	71
GS1 DataBar Omnidirectional の読取り	71
GS1 DataBar Omnidirectional チェックデジットの送信	71

GS1 DataBar Omnidirectional アプリケーション ID (AI) の送信.....	71
GS1 DataBar Omnidirectional コード ID の送信.....	71
GS1 DataBar Limited の読取り.....	72
GS1 DataBar Limited チェックデジットの送信.....	72
GS1 DataBar Limited アプリケーション ID (AI) の送信.....	72
GS1 DataBar Limited コード ID の送信.....	72
GS1 DataBar Expanded の読取り.....	73
GS1 DataBar Expanded コード ID の送信.....	73
ISBT-128.....	74
ISBT-128 の読取り.....	74
ISBT-128 特別な送信モード.....	74
ISBT-128 ID.....	74
ISBT-128 定義済み連結モードの使用.....	74
ISBT-128 ユーザー定義連結モードの使用.....	74
ISBT-128 定義済み連結モードの選択.....	75
ISBT-128 連結バーコードの検索時間.....	75
ISBT-128 ユーザー定義連結モード.....	76
付録 A. コードバイト.....	77
付録 B. シリアルホストコマンド.....	78
スキャナ動作制御コマンド.....	79
動作停止コマンド.....	79
レーザー照射コマンド.....	79
付録 C. コードタイプテーブル.....	80
付録 D. ASCII 文字テーブル.....	81
付録 E. 拡張キーコードテーブル.....	86

1. パッケージ情報

標準パッケージに含まれるもの

		 MS837-SUCB00-SG	 MS837-SUCU00-SG	 MS837-SKCB00-SG
スキャナ本体	クイックガイド	USB ケーブル (1.4M)	USB ケーブル (2.0M)	PS/2 ケーブル

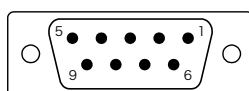
注 機種によって同梱されているケーブルが異なります。

オプション (別売)

		
ハンドフリースタンド (5200-900003G)	RS232C ケーブル (1550-900070G)	AC アダプタ (1010-900008G)

注 AC アダプタは RS232C ケーブル用です。

RS232C ケーブルのピン配置



D-Sub 9 ピン (メス)

ピン番号	信号名
1	-
2	RXD
3	TXD
4	DTR
5	GND
6	DSR
7	RTS
8	CTS
9	VCC (+5V)

2. 設定方法メニュー

2.1. 設定方法について

スキャナの標準値は、パラメータの先頭に＊を表示しています。

スキャナは、以下に示す2つの方法で設定を行ないます。希望する機能によって、シングルコード方式またはマルチコード方式を使用して設定してください。

希望の機能名の先頭にチルダ（～）がある場合は、マルチコード方式を使用して設定を行ないます。何も無い場合はシングルコード方式を使用して設定を行ないます。

例えば、[定義済みプリフィックス](#)（38 ページ）はシングルコード方式を使用して設定します。

例えば、[ユーザー定義プリフィックス](#)（40 ページ）はマルチコード方式を使用して設定します。

シングルコード方式

ほとんどの機能は、シングルコード方式を使用して設定を行ないます。シングルコード方式は、単に希望の設定バーコードを読み取るだけで、スキャナの設定が変更されます。

マルチコード方式

一部の機能は、マルチコード方式を使用して設定を行ないます。マルチコード方式は、複数の設定バーコードを所定の手順で読み取って設定を行ないます。

例えば、バーコードの可読最小数を 8 桁に変更したい場合は、次のように設定します。

1. **設定モード開始/終了**をスキャンします（ビープ 3 回）
2. [\(～\) 可読最小長](#)をスキャンします。（ビープ 1 回）
3. [コードバイト](#)（77 ページ）から**コードバイト 0**をスキャンします（ビープ 1 回）。
4. [コードバイト](#)（77 ページ）から**コードバイト 0**をスキャンします（ビープ 2 回）。
5. [コードバイト](#)（77 ページ）から**コードバイト 8**をスキャンします（ビープ 3 回）。
6. **設定モード開始/終了**をスキャンします。（ビープ 3 回）

設定を中止するには、**設定モード開始/終了**をスキャンする前に、スキャナの電源を切ります（ケーブルを外す）。

設定モード開始/終了



2.2. 設定値一覧

システム設定		
設定項目	標準値	掲載ページ
設定バーコード	常に可能	21
インターフェース	USB モード	21
スキャンモード	手動トリガーモード	21
自動スキャン	無効	22
冗長読取り	0 回	22
スキャンバッファ	1 スキャンバッファ	23
同一バーコードチェック	1 文字チェック	23
同一バーコードタイムアウト	0.5 秒	24
LED オプション	標準 LED 機能	24
ブザーオプション		25
音調変更	標準	25
特殊音調	使用しない	25
ショートブザー	使用しない	25
アドオンブザー	1 回	26
BEL コマンド	無視	26
レコードカウントキャプチャ	使用しない	26

RS232C 設定		
設定項目	標準値	掲載ページ
ボーレート	9600 bps	27
パリティ	スペース	27
データビット	7 ビット	28
ストップビット	2 ビット	28
ハードウェアハンドシェイク		28
RTS/CTS	無効	28
DTR	無効	28
XON/XOFF	無効	29
ソフトウェアハンドシェイク		29
ACK/NAK	無効	29

データ出力設定		
設定項目	標準値	掲載ページ
国コード	米国	30
文字間送信遅延	1 ミリ秒	31
ユーザー定義の文字間送信遅延	未設定	31
データ間送信遅延	0 ミリ秒	32
ユーザー定義のデータ間送信遅延	未設定	32
データ間送信遅延中のレーザー照射	レーザー照射を行なう	32
すべて小文字で出力	無効	33
ALT モード	無効	33
テンキーパッド送信	無効	33
拡張キーコード送信	有効	33
すべての先頭ゼロの削除	無効	34
文字置換	無効	34
コントロールセット	無効	35

プリフィックス/サフィックス		
設定項目	標準値	掲載ページ
定義済みプリフィックス		38
STX プリフィックス	無効	38
HT プリフィックス (TAB)	無効	38
AIM ID	無効	38
定義済みサフィックス		39
HT サフィックス (TAB)	無効	39
CR サフィックス (Enter)	有効	39
LF サフィックス	有効	39
ETX サフィックス	無効	39
ユーザー定義プリフィックス	未設定	40
ユーザー定義サフィックス	未設定	41

バーコード設定		
設定項目	標準値	掲載ページ
可読最小長	3 文字	42
可読文字数固定	未設定	42
指定バーコードロック	未設定	43
マルチフィールド読取り	未設定	45
UPC/EAN/JAN		49
UPC-A の読取り	有効	49
UPC-E の読取り	有効	49
EAN-13/JAN-13 の読取り	有効	49
EAN-8/JAN-8 の読取り	有効	49
UPC-A ナンバーシステム	送信する	50
UPC-A メーカーコード	送信する	50
UPC-A チェックデジット	送信する	50
UPC-A を EAN-13/JAN-13 に変換	変換しない	50
UPC-E 先頭ゼロ	送信しない	51
UPC-E チェックデジット	送信しない	51
UPC-E を 12 桁に拡張	拡張しない	51
EAN-13/JAN-13 チェックデジット	送信する	51
EAN-8/JAN-8 チェックデジット	送信する	51
EAN-8/JAN-8 を EAN-13/JAN-13 に変換	変換しない	52
GTIN フォーマット	変換しない	52
2 桁アドオンコード	無効	52
5 桁アドオンコード	無効	52
2 桁アドオンチェック	無効	52
5 桁アドオンチェック	無効	53
アドオンコード要求	必須ではない	53
アドオンコード確認	0.1 秒	53
JAN-13 アドオンコード確認	確認する	53
アドオンコード読取りブザー	1 回	53
979 アドオンモード	無効	54

バーコード設定（続き）		
設定項目	標準値	掲載ページ
UPC/EAN/JAN（続き）		49
978 アドオンモード	無効	54
977 アドオンモード	無効	54
37x/41x/43x/UPC5 アドオンコード	無効	54
378/379 アドオンモード	無効	55
414/419 アドオンモード	無効	55
434/439 アドオンモード	無効	55
UPC ナンバーシステム 5 アドオンモード	無効	55
ISBN 979	無効	56
ISBN 978	無効	56
ISBN チェックデジット	送信しない	56
ISBN 規格	ISBN-10	56
ISBN 再フォーマット	無効	56
セグメント化された UPC デコード	有効	57
Codabar（NW7）		58
読取り	有効	58
連結送信	送信しない	58
スタートストップ文字	送信しない	58
スタートストップ文字種	大文字	58
CLSI フォーマット	無効	58
チェックデジット（モジュラス 16）の検査	検査しない	59
チェックデジット（セブンチェック）の検査	検査しない	59
チェックデジットの送信	送信しない	59
読み取りにくい Codabar	読取りしない	59
Code 128/GS1-128		60
読取り	有効	60
GS1-128 コード ID の送信	無効	60
グループセパレータ	有効	60

バーコード設定（続き）		
設定項目	標準値	掲載ページ
Code 39		61
読取り	有効	61
チェックデジットの検査	検査しない	61
チェックデジットの送信	送信しない	61
スタートストップ文字	送信しない	61
フル ASCII	無効	61
Code32 の読取り	無効	62
Code32 の要求	Code32 のみ許可	62
Code32 プリフィックス	無効	62
Tri-Optic Code39 の読取り	無効	62
Code 93		62
読取り	有効	62
Code 11		63
読取り	無効	63
チェックデジットの検査	1 桁	63
チェックデジットの検査（10 文字以上）	1 桁	63
チェックデジットの送信	送信しない	63
Interleaved 2 of 5（ITF）		64
読取り	有効	64
チェックデジットの検査	検査しない	64
チェックデジットの送信	送信しない	64
可読最小長	6 文字	64
可読文字数固定	未設定	65
Standard 2 of 5（Industrial 2 of 5）		66
読取り	無効	66
可読文字数固定	未設定	66

バーコード設定（続き）		
設定項目	標準値	掲載ページ
Martrix 2 of 5		67
読取り	無効	67
チェックデジットの検査	検査する	67
チェックデジットの送信	送信しない	67
Hong Kong 2 of 5 の読取り	無効	67
Airline 2 of 5 (IATA)		68
15 桁 IATA の読取り	無効	68
13 桁 IATA の読取り	無効	68
MSI Plessey		69
読取り	無効	69
チェックデジットの検査	検査しない	69
チェックデジットの送信	送信しない	69
UK Plessey		70
読取り	無効	70
チェックデジットの送信	送信しない	70
A を X に変換	変換しない	70
Telepen		70
読取り	無効	70
フル ASCII フォーマット	無効	70
GS1 DataBar (旧 RSS)		71
ダブルボーダー要求	無効	71
Omnidirectional の読取り	無効	71
Omnidirectional チェックデジットの送信	送信する	71
Omnidirectional アプリケーション ID の送信	送信する	71
Omnidirectional コード ID の送信	送信する	71
Limited の読取り	無効	72
Limited チェックデジットの送信	送信する	72
Limited アプリケーション ID の送信	送信する	72
Limited コード ID の送信	送信する	72

バーコード設定（続き）		
設定項目	標準値	掲載ページ
GS1 DataBar（旧 RSS）（続き）		71
Expanded の読取り	無効	73
Expanded コード ID の送信	送信する	73
ISBT-128		74
読取り	無効	74
特別な送信モード	無効	74
ID	送信する	74
定義済み連結モードの使用	無効	74
ユーザー定義連結モードの使用	無効	74
定義済み連結モードの選択	=á + =%	75
連結バーコードの検索時間	0.1 秒	75
ユーザー定義連結モード	未設定	76

2.3. システム設定

設定値の初期化

以前に設定した全ての設定を消去し、工場出荷時の状態に設定するには、**工場出荷標準値**をスキャンします。



工場出荷標準値

設定バーコード



通常バーコードの読取り後に設定バーコードの読取り不可 — 電源オン後に通常のバーコードを読み取ると、以降設定バーコードの読取りを禁止します。再び設定バーコードを読み取りたい場合は、スキャナの電源をオフしてください。



* 常に設定バーコードの読取り可能

シリアル番号送信



シリアル番号を送信する — スキャナのシリアル番号をホストへ送信します。

インターフェース



* USB モード



RS232 モード

注 PS/2 キーボードウェッジを使用するには MS837-SKCB00-SG をご利用ください。インターフェースの切り替えはサポートしていません。

スキャンモード



* 手動トリガーモード



連続点減モード — レーザーが常に点減状態で照射され続けます。バーコードの読取りにはトリガーのクリックが必要です。トリガークリック無しにバーコードを読み取りたい（ハンドフリー読取り）場合は、[自動スキャン](#)（22 ページ）を有効にしてください。

自動スキャン

この機能を使用するには、[スキャンモード](#)（21 ページ）を[連続点滅モード](#)に変更してください。この機能を有効にした場合、[スキャンバッファ](#)（23 ページ）、[同一バーコードチェック](#)（23 ページ）、[同一バーコードタイムアウト](#)（24 ページ）も適切に設定してください。



自動スキャン有効 — トリガークリックなしにバーコードの読取りを行ないます。



* 自動スキャン無効

冗長読取り

この機能を使用してデータの信頼性を上げることができます。スキャナは一度の読取りで以下の設定された回数一致した場合のみデコードを行ない、データを出力します。回数が多いほど信頼性は増しますが、読取り速度が低下します。



* 0回 — 読取り成功で即デコードします。



1 回



2 回



3 回



4 回



5 回



6 回



7 回

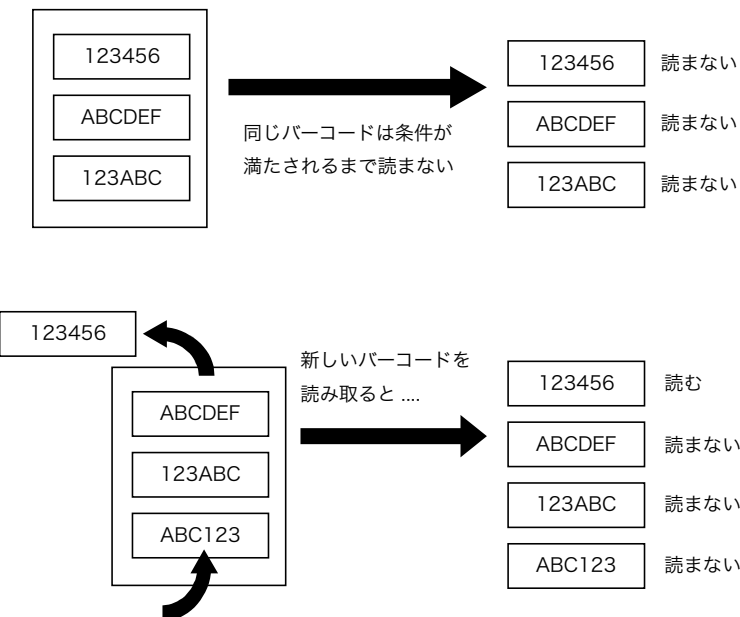
スキャンバッファ

スキャナは、バーコードの読取り後、自身のバッファにいくつかのバーコードを保持することができます。保持されているバーコードは、そのバーコードがスキャナのバッファから削除されるか、[同一バーコードタイムアウト](#)（24 ページ）に設定されている時間が経過するまで読取ることはできません。

注 この設定は、[スキャンモード](#)（21 ページ）が**連続点滅モード**且つ[自動スキャン](#)（22 ページ）が**有効**の場合に使用できます。

3 スキャンバッファの場合：

スキャナは読み取ったバーコードを上から順にバッファへ一時保存します。



* 1 スキャンバッファ



2 スキャンバッファ



3 スキャンバッファ



4 スキャンバッファ

同一バーコードチェック



* 1 文字チェック — 新しいバーコードと認識させるためには、次に読み取るバーコードとの間に異なる文字が 1 文字必要です。



3 文字チェック — 新しいバーコードと認識させるためには、次に読み取るバーコードとの間に異なる文字が 3 文字必要です。

同一バーコードタイムアウト

スキャナが同一バーコードを読取り可能になるまでの時間を設定します。

注 この設定は、[スキャンモード](#) (21 ページ) が**連続点滅モード**且つ[自動スキャン](#) (22 ページ) が**有効**の場合に使用できます。



0.0 秒 — 同一バーコードの読取りを制限しません。



0.5 秒



1.0 秒



1.5 秒



2.0 秒



2.5 秒



3.0 秒



3.5 秒



4.0 秒



4.5 秒



無限 — 同一バーコードを繰り返し読みません。

LED オプション



* 標準 LED 機能 — レーザーON=緑 LED、読取成功=赤 LED



反転 LED 機能 — レーザーON=赤 LED、読取成功=緑 LED

ブザーオプション

注 MS837 シリーズは音量の変更はサポートしていません。

音調変更



* 標準の音調



音調 1



音調 2



音調 3



音調 4



音調 5



音調 6



音を鳴らさない

特殊音調

この機能を使用すると、[音調変更](#) (25 ページ) のブザー音が異なるブザー音に変更されます。



特殊音調を使用する



* 特殊音調を使用しない

ショートブザー

この機能を使用するとブザー音が短くなります。



ショートブザーを使用する



* ショートブザーを使用しない

アドオンブザー



* アドオンコード検出時ブザーを 1 回鳴らす



アドオンコード検出時ブザーを 2 回鳴らす

BEL コマンド

この機能を使用すると、ホストから送信された BEL コマンド (0x07) に対してブザー音を鳴らします。



BEL コマンドを使用する



* BEL コマンドを無視する

レコードカウントキャプチャ

この機能を使用すると、スキャナは内部で読取り数をカウントします。保存したカウント数は、**レコードカウントを送信する**バーコードを使用してホストへ送信します。スキャナの電源が切れるとカウント数は初期化されます。



レコードカウントキャプチャを使用する



* レコードカウントキャプチャを使用しない



レコードカウントを送信する

2.4. RS232 設定

RS232 設定を行なう前に[インターフェース](#) (21 ページ) を RS232 モードへ変更してください。

通信速度 (ボーレート)



115200 bps



57600 bps



38400 bps



19200 bps



14400 bps



* 9600 bps



4800 bps



2400 bps



1200 bps



600 bps



300 bps

パリティ



パリティなし



奇数パリティ



* スペースパリティ



偶数パリティ



マークパリティ

データビット



8 ビット



* 7 ビット

ストップビット



1 ビット



* 2 ビット

ハードウェアハンドシェイク

RTS/CTS



RTS/CTS ハンドシェイクを有効にする — スキャナは RTS 信号を送信し、ホストからの CTS 信号を待ちます。



* RTS/CTS ハンドシェイクを無効にする

注 以下の機能を使用するには、RTS/CTS ハンドシェイクを有効にしてください。



* 文字毎 RTS/CTS — 文字毎に RTS 信号をアクティブ/非アクティブにします。



メッセージ RTS/CTS — 1 文字目の送信前に RTS 信号をアクティブにし、最後の文字が送信されまで RTS 信号をアクティブにし続けます。

DTR



DTR サポートを有効にする — スキャナは DTR 信号が停止したとき、スキャンを停止します。



* DTR サポートを無効にする

XON/XOFF



XON/XOFF 制御を有効にする — スキャナは XOFF (0x13) を受信すると送信を停止し、XON (0x11) を受信すると送信を再開します。



* **XON/XOFF 制御を無効にする**

ソフトウェアハンドシェイク

ACK/NAK



ACK/NAK を有効にする — スキャナはデータ送信後にホストからの ACK (0x06) または NAK (0x15) の応答を待ちます。ACK を受信すると、通信サイクルを完了しバーコードの受付を行ないます。NAK を受信すると、バーコードデータを再送信し、ふたたび ACK または NAK を待ちます。



* **ACK/NAK を無効にする**

注 以下の機能を使用するには、ACK/NAK を有効にしてください。



ACK/NAK 通信ループ中に BEL/CAN をサポートする — スキャナは、ACK/NAK の通信ループ中に BEL (0x07) を受信すると、ブザーを 3 回鳴らして通信ループを抜けます。CAN (0x18) を受信すると、何も鳴らさずに通信ループを抜けます。



* **ACK/NAK 通信ループ中に BEL/CAN を無視する**

2.5. データ出力設定

国コード選択

スキャナが接続されているホストの正しい国コードを選択してください。

注 正しい国コードが選択されていないと、一部の記号が出力されなかったり誤った記号として出力されたりします。



* 米国



スイス



スペイン



イタリア



ドイツ



フランス



イギリス



ベルギー



日本



IBM 4700



スウェーデン/フィンランド



スロベニア



トルコ



ロシア キリル文字



ハンガリー

文字間送信遅延

スキャナからホストへスキャンデータを送信する際の 1 文字と 1 文字との間に設定される送信遅延時間を変更します。ホスト側でスキャンデータの欠落などが発生する場合、この設定を変更することで改善される可能性があります。



0 ミリ秒の文字間送信遅延（文字間送信遅延なし）



* 1 ミリ秒の文字間送信遅延



10 ミリ秒の文字間送信遅延



25 ミリ秒の文字間送信遅延

注 この機能は、[インターフェース](#)（21 ページ）が **USB モード** の場合は使用できません。

注 任意の遅延時間を設定したい場合は、[ユーザー定義の文字間送信遅延](#)（31 ページ）を参照してください。

ユーザー定義の文字間送信遅延



(～) ユーザー定義の文字間送信遅延 — [文字間送信遅延時間](#)（31 ページ）を 1 ミリ秒単位で任意に設定することができます。設定可能範囲は 0～255 です。

例えば文字間送信遅延時間を 85 ミリ秒に設定したい場合は、次のように設定します。

1. [設定モード開始/終了](#)（12 ページ）をスキャンします。
2. [ユーザー定義の文字間送信遅延](#)をスキャンします。
3. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 0 をスキャンします。
4. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 8 をスキャンします。
5. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 5 をスキャンします。
6. [設定モード開始/終了](#)（12 ページ）をスキャンします。

データ間送信遅延

スキャナからホストへスキャンデータを送信する際の 1 つのバーコードデータとその次のバーコードデータとの間に設定される送信遅延時間を変更します。



* 0 ミリ秒のデータ間送信遅延（データ間送信遅延なし）



5 ミリ秒のデータ間送信遅延



50 ミリ秒のデータ間送信遅延



125 ミリ秒のデータ間送信遅延

ユーザー定義のデータ間送信遅延



(～) ユーザー定義のデータ間送信遅延 - [データ間送信遅延](#) (32 ページ) を 5 ミリ秒単位で任意に設定することができます。設定可能範囲は 0～127 です。

例えばデータ間送信遅延時間を 50 ミリ秒に設定したい場合は、次のように設定します。

1. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。
2. [ユーザー定義のデータ間送信遅延](#) をスキャンします。
3. [コードバイト](#) (77 ページ) から [コードバイト 0](#) をスキャンします。
4. [コードバイト](#) (77 ページ) から [コードバイト 1](#) をスキャンします。
5. [コードバイト](#) (77 ページ) から [コードバイト 0](#) をスキャンします。
6. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。

データ間送信遅延中のレーザー照射



データ間送信遅延時間の間はレーザー照射をオフにします



* データ間送信遅延時間の間もレーザー照射を行います

すべて小文字で出力



すべてのデータを小文字で出力する



* データ通りに出力する

ALT モード



Alt モードを有効にする — すべての文字を「Alt キー+テンキーパッドの数字キー」の組み合わせで送信します。この機能を有効にした場合は、以下の2つのオプションから希望の機能を選択してください。



* Alt モードを無効にする

注 以下の機能を使用するには、Alt モードを有効にしてください。



* **Alt モードを有効にする（標準）** — Alt キーを押しながら、各文字に対応する3桁の数字を送信します。例えば英字の「p」の場合は、「Alt+112」と送信します。



Alt モードを無効にする（高度） — Alt キーを押しながら、各文字に対応する4桁の数字を送信します。例えば英字の「p」の場合は、「Alt+0112」と送信します。

テンキーパッド送信



数字をテンキーパッドからのデータとして送信



* 数字を標準データとして送信

拡張キーコード送信



* **拡張キーコードを送信する** — [拡張キーコードテーブル](#)（86 ページ）の F1 や F2 などを拡張キーとして送信します。



拡張キーコードを Alt モードで送信する — 拡張キーを Alt モードで送信します。例えば「F3」は「Alt+146」として送信します。

すべての先頭 0（ゼロ）を削除

先頭側にあるすべての 0（ゼロ）を削除して出力します。例えば「000001234」というバーコードは、「1234」として出力されます。



すべての先頭 0 を削除する



* すべての先頭 0 を削除しない

文字置換

任意の 1 文字を別の文字に置換して出力します。設定を行なうには、置換前後の文字を [ASCII 文字テーブル](#)（81 ページ）のコードバイトで指定する必要があります。



(～) 置換前の文字



(～) 置換後の文字



* 置換を行なわない

例えばバーコード内の「@」（コードバイト＝064）を「&」（コードバイト＝038）として出力したい場合は、次のように設定します。

1. [設定モード開始/終了](#)（12 ページ）をスキャンします。
2. [置換前の文字](#)をスキャンします。
3. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 0 をスキャンします。
4. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 6 をスキャンします。
5. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 4 をスキャンします。
6. [置換後の文字](#)をスキャンします。
7. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 0 をスキャンします。
8. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 3 をスキャンします。
9. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 8 をスキャンします。
10. [設定モード開始/終了](#)（12 ページ）をスキャンします。

注 文字置換を削除したい場合は、[置換を行なわない](#)バーコードを単にスキャンしてください。

コントロールセット

通常、バーコードは ASCII 文字セットのみをエンコードし、IBM 互換機のキーボードで使用されるファンクションキー、矢印キー、その他多くの拡張キーはエンコードすることができません。この機能を有効化すると、特定の ASCII 文字がバーコード内にある場合、その特定の ASCII 文字を拡張キーとして出力することができます。



コントロールセットを有効にする



* コントロールセットを無効にする

ASCII 文字をバーコード内に内包する方法として、Code 39 フル ASCII を使用する方法や Code 128 を使用してエンコードする方法があります。

コントロールセット

ASCII (16 進数)	ASCII 制御文字	拡張キー
0x00	NUL	+ (テンキー)
0x01	SOH	Num Lock
0x02	STX	↓
0x03	ETX	— (テンキー)
0x04	EOT	Insert
0x05	ENQ	Delete
0x06	ACK	System Request
0x07	BEL	→
0x08	BS	←
0x09	TAB	Tab
0x0A	LF	Caps Lock
0x0B	VT	Shift Tab
0x0C	FF	左 Alt
0x0D	CR	Enter
0x0E	SO	左 Ctrl
0x0F	SI	↑
0x10	DLE	F1
0x11	DC1	F2
0x12	DC2	F3

コントロールセット (続き)

ASCII (16 進数)	ASCII 制御文字	拡張キー
0x13	DC3	F4
0x14	DC4	F5
0x15	NAK	F6
0x16	SYN	F7
0x17	ETB	F8
0x18	CAN	F9
0x19	EM	F10
0x1A	SUB	Home
0x1B	ESC	Esc
0x1C	FS	Page Up
0x1D	GS	Page Down
0x1E	RS	Print Screen
0x1F	US	End

2.6. プリフィックス/サフィックス

概要

バーコードを読み取ったとき、追加の情報としてプリフィックスまたはサフィックスをバーコードデータと一緒にホストコンピュータに送信することができます。

プリフィックス文字とサフィックス文字は、読み取ったデータの先頭または末尾に追加して送信することのできる文字列です。これらの文字はすべてのシンボルに対して追加されます。以下の図は、送信されるデータ文字列の概要です。

定義済み プリフィックス	ユーザー定義 プリフィックス	読み取ったデータ	ユーザー定義 サフィックス	定義済み サフィックス
STX プリフィックス HT プリフィックス AIM ID	1～10文字 ASCII 文字&拡張キー	可変長	1～10文字 ASCII 文字&拡張キー	HT サフィックス CR サフィックス LF サフィックス ETX サフィックス

定義済みプリフィックス

あらかじめ定義されているプリフィックスを追加することができます。以下の図は、すべての定義済みプリフィックスを有効化した場合の概要です。

STX	HT	AIM ID	読み取ったデータ
-----	----	--------	----------

可変長

STX プリフィックス



STX プリフィックスを有効 — 各バーコードの前に STX (0x02) を送信します。



* STX プリフィックスを無効

HT プリフィックス (TAB)



HT プリフィックスを有効 — 各バーコードの前に HT (0x09) を送信します。インターフェースが USB およびキーボードウェッジの場合は、Tab を送信します。



* HT プリフィックスを無効

AIM ID 文字



AIM ID 文字を有効 — 各バーコードの前に AIM ID 文字を送信します。



* AIM ID 文字を無効

定義済みサフィックス

あらかじめ定義されているサフィックスを追加することができます。以下の図は、すべての定義済みサフィックスを有効化した場合の概要です。

読み取ったデータ	HT	CR	LF	ETX
----------	----	----	----	-----

可変長

HT サフィックス (TAB)



HT サフィックスを有効 — 各バーコードの後に HT (0x09) を送信します。インターフェースが USB およびキーボードウェッジの場合は、Tab を送信します。



* **HT サフィックスを無効**

CR サフィックス (Enter)



* **CR サフィックスを有効** — 各バーコードの後に CR (0x0d) を送信します。インターフェースが USB およびキーボードウェッジの場合は、Enter を送信します。



CR サフィックスを無効

LF サフィックス



* **LF サフィックスを有効** — 各バーコードの後に LF (0x0a) を送信します。インターフェースが USB およびキーボードウェッジの場合は、無効になります。



LF サフィックスを無効

ETX サフィックス



ETX サフィックスを有効 — 各バーコードの後に ETX (0x03) を送信します。



* **ETX サフィックスを無効**

ユーザー定義プリフィックス

ユーザー定義プリフィックスにより任意の文字や拡張キーをデータの先頭に挿入することができます。スキャナは最大 10 個のユーザー定義プリフィックスをサポートします。



(～) プリフィックス文字 #1



(～) プリフィックス文字 #2



(～) プリフィックス文字 #3



(～) プリフィックス文字 #4



(～) プリフィックス文字 #5



(～) プリフィックス文字 #6



(～) プリフィックス文字 #7



(～) プリフィックス文字 #8



(～) プリフィックス文字 #9



(～) プリフィックス文字 #10



* すべてのユーザー定義プリフィックス文字を削除する

スキャナにプリフィックス文字を追加するには、希望の**プリフィックス文字 #XX** をスキャンしてから [ASCII 文字テーブル](#) (81 ページ) または [拡張キーコードテーブル](#) (86 ページ) より希望の文字または拡張キーの 3 桁の**コードバイト** をスキャンします。例えばプリフィックス文字として「@」を追加したい場合は、次のように設定します。

1. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。
2. **プリフィックス文字 #1** をスキャンします。
3. [コードバイト](#) (77 ページ) から**コードバイト 0** をスキャンします。
4. [コードバイト](#) (77 ページ) から**コードバイト 6** をスキャンします。
5. [コードバイト](#) (77 ページ) から**コードバイト 4** をスキャンします。
6. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。

ユーザー定義サフィックス

ユーザー定義サフィックスにより任意の文字や拡張キーをデータの後ろに挿入することができます。スキャナは最大 10 個のユーザー定義サフィックスをサポートします。



(～) サフィックス文字 #1



(～) サフィックス文字 #2



(～) サフィックス文字 #3



(～) サフィックス文字 #4



(～) サフィックス文字 #5



(～) サフィックス文字 #6



(～) サフィックス文字 #7



(～) サフィックス文字 #8



(～) サフィックス文字 #9



(～) サフィックス文字 #10



* すべてのユーザー定義サフィックス文字を削除する

スキャナにサフィックス文字を追加するには、希望の**サフィックス文字 #XX** をスキャンしてから [ASCII 文字テーブル](#) (81 ページ) または [拡張キーコードテーブル](#) (86 ページ) より希望の文字または拡張キーの 3 桁の**コードバイト** をスキャンします。例えばサフィックス文字として「@」を追加したい場合は、次のように設定します。

1. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。
2. **サフィックス文字 #1** をスキャンします。
3. [コードバイト](#) (77 ページ) から**コードバイト 0** をスキャンします。
4. [コードバイト](#) (77 ページ) から**コードバイト 6** をスキャンします。
5. [コードバイト](#) (77 ページ) から**コードバイト 4** をスキャンします。
6. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。

2.7. バーコード設定

すべてのバーコードの可読最小長



(～) 可読最小長 — UPC/EAN/JAN コードを除いたすべてのバーコードの読取り可能な最小文字数を指定します。この文字数より少ないバーコードは無視されます。標準の設定値は3文字です。

8文字に設定したい場合は、次のように設定します。

1. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。
2. 可読最小長をスキャンします。
3. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 0 をスキャンします。
4. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 0 をスキャンします。
5. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 8 をスキャンします。
6. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。

すべてのバーコードの可読文字数固定



(～) 可読文字数固定 — UPC/EAN/JAN コードを除いたすべてのバーコードの読取り可能な文字数を固定します。この文字数以外のバーコードは無視されます。標準の設定値は0文字（可変長読取り）です。

1 4文字のコードのみ読み取りたい場合は、次のように設定します。

1. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。
2. 可読文字数固定をスキャンします。
3. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 0 をスキャンします。
4. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 1 をスキャンします。
5. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 4 をスキャンします。
6. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。

注 初期値の可変長読取りに戻したい場合は、コードバイト 000 を指定してください。

指定バーコードロック

バーコードタイプ (80 ページ) 別に文字数を指定し読取り可能なコードを設定します。最大 7 つの組み合わせで指定が可能です。この設定は、指定したバーコードタイプのみ適用されます。

例えば Code39 を指定し、10 文字のものだけ読取りたい場合は、次のように設定します。

1. 設定モード開始/終了 (12 ページ) をスキャンします。
2. 可読文字数指定 #1 をスキャンします。
3. コードバイト (77 ページ) から コードバイト 0 をスキャンします。
4. コードバイト (77 ページ) から コードバイト 1 をスキャンします。
5. コードバイト (77 ページ) から コードバイト 0 をスキャンします。
6. 可読バーコード指定 #1 をスキャンします。
7. コードバイト (77 ページ) から コードバイト 0 をスキャンします。
8. コードバイト (77 ページ) から コードバイト 8 をスキャンします。
9. コードバイト (77 ページ) から コードバイト 0 をスキャンします。
10. 設定モード開始/終了 (12 ページ) をスキャンします。

注 かならず、可読文字数指定と可読バーコード指定を 1 度の設定モード内で設定してください。

注 複数の設定を行ないたい場合は、上記手順を #2～#7 まで繰り返してください。

注 バーコードタイプの重複が可能です。Code39 を対象とした場合、8 文字と 10 文字と 12 文字のみ読取りたい場合は、#1～#3 にそれぞれ設定してください。



(～) 可読文字数指定 #1



(～) 可読バーコード指定 #1



(～) 可読文字数指定 #2



(～) 可読バーコード指定 #2



(～) 可読文字数指定 #3



(～) 可読バーコード指定 #3



(～) 可読文字数指定 #4



(～) 可読バーコード指定 #4



(～) 可読文字数指定 #5



(～) 可読バーコード指定 #5



(～) 可読文字数指定 #6



(～) 可読バーコード指定 #6



(～) 可読文字数指定 #7





(～) 可読バーコード指定 #7

マルチフィールド読取り

マルチフィールド読取り機能とは、複数の UPC/EAN/JAN コードを 1 つのデータとして出力するための機能です。2～4 個のバーコードを 1 つのグループとして指定します。グループは最大 4 つ作成することができます。

バーコードは、先頭の 2 文字で指定します。そのため、先頭の 2 文字が同じバーコードのマルチフィールド読取りはできません。

対象	対象外
 	 

また、バーコード毎にプリフィックスおよびサフィックスも通常のデータ送信と同じように送信されます。例えば、上記の 2 段バーコードを読み取った場合は以下のように送信されます。

注 連続したデータの最後にだけサフィックスを追加することはできません。

CR サフィックス有効	サフィックス無効
9781234567897 [Enter] 1921234567895 [Enter]	97812345678971921234567895

マルチフィールド読取りを使用するには、最初にスキャナの設定を以下の通りに変更する必要があります。

- [セグメント化された UPC デコード](#) (57 ページ) を無効化します。



セグメント化された UPC デコードを無効にする

- [スキャンバッファ](#) (23 ページ) を適切に設定します。例えば 2 段バーコードの場合は、2 スキャンバッファを設定します。



2 スキャンバッファ

- バーコードの存在検出を無効化します。



バーコードの存在検出を無効にする

- 標準コードセレクトを有効化します。



標準コードセレクトを有効にする

マルチフィールド読取り（続き）

次にマルチフィールド読取りを有効化します。



マルチフィールド読取りを有効にする



* マルチフィールド読取りを無効にする

最後にマルチフィールド読取りを適用させる UPC/EAN/JAN コードの先頭2文字を設定します。指定する文字は、1文字目と2文字目を別々にコードバイトで指定します。数値のコードバイト値は、[ASCII 文字テーブル](#)（81 ページ）を参照してください。

注 データは、実際に読取った順番ではなく、指定されているコードの順番で送信されます。



例えば、上図の様な先頭「97」および「19」の2段バーコードを指定するには次の通りに設定します。
（9＝コードバイト 057、7＝コードバイト 055、1＝コードバイト 049）

1. [設定モード開始/終了](#)（12 ページ）をスキャンします。
2. [1st グループの1番目のコードの1文字目](#)（47 ページ）をスキャンします。
3. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 0 をスキャンします。
4. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 5 をスキャンします。
5. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 7 をスキャンします。
6. [1st グループの1番目のコードの2文字目](#)（47 ページ）をスキャンします。
7. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 0 をスキャンします。
8. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 5 をスキャンします。
9. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 5 をスキャンします。
10. [1st グループの2番目のコードの1文字目](#)（47 ページ）をスキャンします。
11. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 0 をスキャンします。
12. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 4 をスキャンします。
13. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 9 をスキャンします。
14. [1st グループの2番目のコードの2文字目](#)（47 ページ）をスキャンします。
15. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 0 をスキャンします。
16. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 5 をスキャンします。
17. [コードバイト](#)（77 ページ）からコードバイト 7 をスキャンします。
18. [設定モード開始/終了](#)（12 ページ）をスキャンします。

マルチフィールド読取り（続き）

1st グループセット



(～) 1st グループの 1 番目のコードの 1 文字目



(～) 1st グループの 1 番目のコードの 2 文字目



(～) 1st グループの 2 番目のコードの 1 文字目



(～) 1st グループの 2 番目のコードの 2 文字目



(～) 1st グループの 3 番目のコードの 1 文字目



(～) 1st グループの 3 番目のコードの 2 文字目



(～) 1st グループの 4 番目のコードの 1 文字目



(～) 1st グループの 4 番目のコードの 2 文字目

2nd グループセット



(～) 2nd グループの 1 番目のコードの 1 文字目



(～) 2nd グループの 1 番目のコードの 2 文字目



(～) 2nd グループの 2 番目のコードの 1 文字目



(～) 2nd グループの 2 番目のコードの 2 文字目



(～) 2nd グループの 3 番目のコードの 1 文字目



(～) 2nd グループの 3 番目のコードの 2 文字目



(～) 2nd グループの 4 番目のコードの 1 文字目



(～) 2nd グループの 4 番目のコードの 2 文字目

マルチフィールド読取り（続き）

3rd グループセット



(～) 3rd グループの 1 番目のコードの 1 文字目



(～) 3rd グループの 1 番目のコードの 2 文字目



(～) 3rd グループの 2 番目のコードの 1 文字目



(～) 3rd グループの 2 番目のコードの 2 文字目



(～) 3rd グループの 3 番目のコードの 1 文字目



(～) 3rd グループの 3 番目のコードの 2 文字目



(～) 3rd グループの 4 番目のコードの 1 文字目



(～) 3rd グループの 4 番目のコードの 2 文字目

4th グループセット



(～) 4th グループの 1 番目のコードの 1 文字目



(～) 4th グループの 1 番目のコードの 2 文字目



(～) 4th グループの 2 番目のコードの 1 文字目



(～) 4th グループの 2 番目のコードの 2 文字目



(～) 4th グループの 3 番目のコードの 1 文字目



(～) 4th グループの 3 番目のコードの 2 文字目



(～) 4th グループの 4 番目のコードの 1 文字目



(～) 4th グループの 4 番目のコードの 2 文字目

UPC/EAN/JAN



* すべての UPC/EAN/JAN を有効にする



すべての UPC/EAN/JAN を無効にする

UPC-A の読取り



* UPC-A を有効にする



UPC-A を無効にする

UPC-E の読取り



* UPC-E を有効にする



UPC-E を無効にする

EAN-13/JAN-13 の読取り



* EAN-13/JAN-13 を有効にする



EAN-13/JAN-13 を無効にする

EAN-8/JAN-8 の読取り



* EAN-8/JAN-8 を有効にする



EAN-8/JAN-8 を無効にする

UPC-A ナンバーシステム



* UPC-A ナンバーシステムを送信する



UPC-A ナンバーシステムを送信しない

UPC-A メーカーコード



* UPC-A メーカーコードを送信する



UPC-A メーカーコードを送信しない

UPC-A アイテムコード



* UPC-A アイテムコードを送信する



UPC-A アイテムコードを送信しない

UPC-A チェックデジット



* UPC-A チェックデジットを送信する



UPC-A チェックデジットを送信しない

ゼロから始まる JAN-13 の読取り

UPC-A を EAN-13/JAN-13 に変換



UPC-A を EAN-13/JAN-13 に変換する — UPC-A の先頭にゼロを1つ追加します。また、ゼロからはじまる JAN-13 の場合は先頭のゼロを含んだ 13 桁で送信します。



* UPC-A を変換しない — ゼロからはじまる JAN-13 の場合は先頭ゼロを省いた 12 桁で送信します。

UPC-E 先頭ゼロ



UPC-E の先頭ゼロを送信する



* UPC-E の先頭ゼロを送信しない

UPC-E チェックデジット



UPC-E チェックデジットを送信する



* UPC-E チェックデジットを送信しない

UPC-E を 12 桁に拡張



UPC-E を 12 桁に拡張して送信する



* UPC-E を 12 桁に拡張して送信しない

EAN-13/JAN-13 チェックデジット



* EAN-13/JAN-13 チェックデジットを送信する



EAN-13/JAN-13 チェックデジットを送信しない

EAN-8/JAN-8 チェックデジット



* EAN-8/JAN-8 チェックデジットを送信する



EAN-8/JAN-8 チェックデジットを送信しない

EAN-8/JAN-8 を EAN-13/JAN-13 に変換



EAN-8/JAN-8 を EAN-13/JAN-13 に変換する



* EAN-8/JAN-8 を変換しない

GTIN フォーマット



UPC/EAN/JAN を GTIN フォーマット（14 桁）で送信する



* GTIN フォーマットで送信しない

2 桁アドオンコード



2 桁アドオンコードを有効にする



* 2 桁アドオンコードを無効にする

5 桁アドオンコード



5 桁アドオンコードを有効にする



* 5 桁アドオンコードを無効にする

2 桁アドオンチェック



2 桁アドオンコードの 2 回一致読取を有効にする — スキャナはバーコードおよび 2 桁アドオンコードを 2 回読み取って一致してから出力します。



* 2 桁アドオンコードの 2 回一致読取を無効にする

5桁アドオンチェック



5桁アドオンコードの2回一致読取を有効にする — スキャナはバーコードおよび5桁アドオンコードを2回読み取って一致してから出力します。



* 5桁アドオンコードの2回一致読取を無効にする

アドオンコードの要求



必ずアドオンコードを要求します — UPC/EAN/JAN コードの読取りにアドオンコードが必須です。



* アドオンコードが必須ではありません — UPC/EAN/JAN コードにアドオンコードがあれば読み取ります。

アドオンコード確認



0.4 秒 — UPC/EAN/JAN コードの読取り後に 0.4 秒間アドオンコードを確認します。



0.2 秒 — UPC/EAN/JAN コードの読取り後に 0.2 秒間アドオンコードを確認します。



* 0.1 秒 — UPC/EAN/JAN コードの読取り後に 0.1 秒間アドオンコードを確認します。

JAN-13 のアドオンコード確認



JAN-13 を読み取った場合はアドオンコード確認を行なわない



* 通常のアドオンコード確認

アドオンコード読取りブザー



* アドオンコードを読み取ったらブザー音を 1 回鳴らす



アドオンコードを読み取ったらブザー音を 2 回鳴らす

979 アドオンモード



979 アドオンモードを使用する — 979 から始まる UPC/EAN/JAN コードの読取りに、5桁アドオンコードが必須です。



* 979 アドオンモードを使用しない

978 アドオンモード



978 アドオンモードを使用する — 978 から始まる UPC/EAN/JAN コードの読取りに、5桁アドオンコードが必須です。



* 978 アドオンモードを使用しない

977 アドオンモード



977 アドオンモードを使用する — 977 から始まる UPC/EAN/JAN コードの読取りに、2桁アドオンコードが必須です。



* 977 アドオンモードを使用しない

37x/41x/43x/UPC5 アドオンコード

次ページの4つのアドオンモードで使用するアドオンコードを設定することができます。



* 2桁アドオンコードを有効にする



2桁アドオンコードを無効にする



* 5桁アドオンコードを有効にする



5桁アドオンコードを無効にする

378/379 アドオンモード



378/379 アドオンモードを使用する — 378 および 379 から始まる UPC/EAN/JAN コードの読取りに、[2桁または5桁アドオンコード](#)が必須です。



* 378/379 アドオンモードを使用しない

414/419 アドオンモード



414/419 アドオンモードを使用する — 414 および 419 から始まる UPC/EAN/JAN コードの読取りに、[2桁または5桁アドオンコード](#)が必須です。



* 414/419 アドオンモードを使用しない

434/439 アドオンモード



434/439 アドオンモードを使用する — 434 または 439 から始まる UPC/EAN/JAN コードの読取りに、[2桁または5桁のアドオンコード](#)が必須です。



* 434/439 アドオンモードを使用しない

UPC ナンバーシステム 5 アドオンモード



UPC ナンバーシステム5アドオンモードを使用する — 5 から始まる UPC の読取りに、[2桁または5桁のアドオンコード](#)が必須です。



* UPC ナンバーシステム 5 アドオンモードを使用しない

ISBN 979



ISBN 979 の変換を有効にする — 979 から始まる EAN-13/JAN-13 を ISBN として出力します。



* ISBN 979 の変換を無効にする

ISBN 978



ISBN 978 の変換を有効にする — 978 から始まる EAN-13/JAN-13 を ISBN として出力します。



* ISBN 978 の変換を無効にする

ISBN チェックデジット



ISBN チェックデジットを送信する



* ISBN チェックデジットを送信しない

ISBN 規格



* ISBN-10 — ISBN を 10 桁で出力します。



ISBN-13 — ISBN を 13 桁で出力します。

ISBN 再フォーマット



ISBN の再フォーマットする — ISBN10=X-XXX-XXXXX-X、ISBN-13=XXX-X-XXX-XXXXX-X の形式に変換して出力します。



* ISBN の再フォーマットしない

セグメント化された UPC デコード



* セグメント化された UPC デコードを有効にする – 破損したバーコードおよび不完全なバーコードの解析を実行し読み取ります。すべてのバーコードに対して完全に解析ができるわけではありません。




セグメント化された UPC デコードを無効にする – バーコードの読み取りコンディションが良いときは、この機能を無効にすると読み取り速度が高速化されます。


Codabar (NW7)

Codabar の読取り

 * Codabar を有効にする


 Codabar を無効にする


Codabar 連結送信

 隣り合った Codabar を連結して送信する — 隣り合った2つの Codabar を1つのデータとして送信します。バーコードの間隔によっては連結できない場合があります。


 * 連結して送信しない


Codabar スタートストップ文字

 スタートストップ文字を送信する — 各バーコードの先頭と末尾にスタートストップ文字を送信します。


 * スタートストップ文字を送信しない


Codabar スタートストップ文字種

 * 大文字のスタートストップ文字を使用する — 各バーコードの先頭と末尾に送信されるスタートストップ文字を大文字 (A/B/C/D) にします。

 小文字のスタートストップ文字を使用する — 各バーコードの先頭と末尾に送信されるスタートストップ文字を小文字 (a/b/c/d) にします。

CLSI フォーマット

 CLSI フォーマットを使用する — 14桁の Codabar を CLSI 形式で送信します。データは、先頭から 1、4、5、4 文字をスペースで区切った状態で送信されます。

 * CLSI フォーマットを使用しない

Codabar チェックデジット（モジュラス 16）の検査



チェックデジット（モジュラス 16）を検査する — スキャナは有効なモジュラス 16 チェックデジットのある Codabar のみ読取ります。チェックデジット（セブンチェック）とは同時に使用できません。



* **チェックデジット（モジュラス 16）を検査しない**

Codabar チェックデジット（セブンチェック）の検査



チェックデジット（セブンチェック）を検査する — スキャナは有効なセブンチェックデジットのある Codabar のみ読取ります。チェックデジット（モジュラス 16）とは同時に使用できません。



* **チェックデジット（セブンチェック）を検査しない**

Codabar チェックデジットの送信



* **チェックデジットを送信する** — いずれかのチェックデジットを検査する場合のみ使用できます。



チェックデジットを送信しない

読み取りにくい Codabar

この機能は、標準の設定では読取りできない、規格外の Codabar の読取りを行うために使用します。



読み取りにくい Codabar を読み取る — スキャナはエレメント比の検査を行わなくなるため、規格外バーコードの読取りが可能になります。この機能を使用すると、誤読の可能性が高まるため、[冗長読取り](#)（22 ページ）も併せて設定することをお勧めいたします。



* **読み取りにくい Codabar は読取らない** — スキャナは正しいエレメント比の規格内バーコードのみを読み取ります。

Code128

Code128/GS1-128 の読取り



* Code 128 を有効にする



Code 128 を無効にする

注 GS1-128 の括弧付きの送信や AI の編集には対応していません。

GS1-128 コード ID の送信



GS1-128 コード ID を送信する — コード ID である 「J C1」 を送信します。



* GS1-128 コード ID を送信しない

Code128/GS1-128 グループセパレータ



* Code 128 グループセパレータを有効にする — Code128 の GS (0x1d) が送信されます。



Code 128 グループセパレータを無効にする

Code39

Code39 の読取り



* Code 39 を有効にする



Code 39 を無効にする

Code39 チェックデジットの検査



チェックデジットを検査する — スキャナは有効なモジュラス 43 チェックデジットのある Code 39 のみ読取ります。



* チェックデジットを検査しない

Code39 チェックデジットの送信



チェックデジットを送信する — チェックデジットを検査する場合のみ使用できます。



* チェックデジットを送信しない

Code39 スタートストップ文字



スタートストップ文字を送信する — 先頭と末尾の「*」を送信します。



* スタートストップ文字を送信しない

Code39 フル ASCII



フル ASCII Code 39 を有効にする



* フル ASCII Code 39 を無効にする

Code32 の読取り



Code32 (PARAF イタリア医薬品コード) を有効にする — Code39 を Code32 に変換して送信します。



* Code32 を無効にする

Code32 の要求



* Code32 のみ読取りを許可する — Code32 に変換できない Code39 の読取りを許可しません。



Code32 以外の読取りを許可する

Code32 プリフィックス



Code32 の先頭に「A」を追加する



* Code32 の先頭に「A」を追加しない

Tri-Optic Code39 の読取り



Tri-Optic Code39 を有効にする — Tri-Optic Code39 は「\$」をスタートストップ文字として使用した 6 文字のバーコードです。



* Tri-Optic Code39 を無効にする

Code93

Code93 の読取り



* Code 93 を有効にする



Code 93 を無効にする

Code11

Code11 の読取り



Code 11 を有効にする



* Code 11 を無効にする

Code11 チェックデジットの検査



* 1桁チェックデジットを検査する — スキャナは有効な1桁チェックデジットのあるCode 11バーコードのみ読取ります。



2桁チェックデジットを検査する — スキャナは有効な2桁チェックデジットのあるCode 11バーコードのみ読取ります。

Code11 チェックデジットの検査（10文字以上）

この機能は、[Code 11 チェックデジットの検査](#)が1桁チェックデジットを検査する場合に使用されます。



* 常に1桁チェックデジットで検査する



10文字以上Code 11の場合、2桁チェックデジットを検査する — 読取り文字数が10文字以上の場合、1桁チェックデジットのコードを読み取りません。1

Code11 チェックデジットの送信



チェックデジットを送信する



* チェックデジットを送信しない


Interleaved 2 of 5 (ITF)


Interleaved 2 of 5 の読取り

 * Interleaved 2 of 5 を有効にする


 Interleaved 2 of 5 を無効にする


Interleaved 2 of 5 チェックデジットの検査

 チェックデジットを検査する — スキャナは有効なモジュラス 10 チェックデジットのある Interleaved 2 of 5 のみ読取ります。


 * チェックデジットを検査しない

Interleaved 2 of 5 チェックデジットの送信

 チェックデジットを送信する — チェックデジットを検査する場合のみ使用できます。

 * チェックデジットを送信しない

Interleaved 2 of 5 可読最小長

 (～) 可読最小長 — Interleaved 2 of 5 の読取り可能な最小文字数を指定します。この文字数より少ないコードは無視されます。標準の設定値は 6 文字です。

4 文字以上のコードを読み取りたい場合は、次のように設定します。

1. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。
2. 可読最小長をスキャンします。
3. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 0 をスキャンします。
4. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 0 をスキャンします。
5. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 4 をスキャンします。
6. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。

Interleaved 2 of 5 可読文字数固定



(～) 可読文字数固定 #1 – Interleaved 2 of 5 で読取る文字数を固定します。2つの文字数を指定することができます。標準の設定値は0文字（可変長読取り）です。



(～) 可読文字数固定 #2

1 4文字と1 6文字のコードのみ読み取りたい場合は、次のように設定します。

1. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。
2. 可読文字数固定 #1 をスキャンします。
3. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 0 をスキャンします。
4. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 1 をスキャンします。
5. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 4 をスキャンします。
6. 可読文字数固定 #2 をスキャンします。
7. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 0 をスキャンします。
8. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 1 をスキャンします。
9. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 6 をスキャンします。
10. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。

注 初期値の可変長読取りに戻したい場合は、両方の値を0に設定してください。

Standard 2 of 5 (Industrial 2 of 5)

Standard 2 of 5 の読取り



Standard 2 of 5 を有効にする



* Standard 2 of 5 を無効にする

Standard 2 of 5 可読文字数固定



(～) 可読文字数固定 — Standard 2 of 5 で読取る文字数を固定します。標準の設定値は 0 文字（可変長読取り）です。

8 文字のコードのみ読み取りたい場合は、次のように設定します。

1. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。
2. 可読文字数固定をスキャンします。
3. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 0 をスキャンします。
4. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 0 をスキャンします。
5. [コードバイト](#) (77 ページ) からコードバイト 8 をスキャンします。
6. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。

注 初期値の可変長読取りに戻したい場合は、値を 0 に設定してください。

Matrix 2 of 5

Matrix 2 of 5 の読取り



Matrix 2 of 5 を有効にする



* Matrix 2 of 5 を無効にする

Matrix 2 of 5 チェックデジットの検査



* チェックデジットを検査する — スキャナは有効なチェックデジットのある Matrix 2 of 5 のみ読取ります。



チェックデジットを検査しない

Matrix 2 of 5 チェックデジットの送信



チェックデジットを送信する — チェックデジットを検査する場合のみ使用できます。



* チェックデジットを送信しない

Hong Kong 2 of 5 の読取り



Hong Kong 2 of 5 を有効にする



* Hong Kong 2 of 5 を無効にする

Airline 2 of 5 (IATA)

15桁 Airline 2 of 5 の読取り



15桁 Airline 2 of 5 を有効にする



* 15桁 Airline 2 of 5 を無効にする

13桁 Airline 2 of 5 の読取り



13桁 Airline 2 of 5 を有効にする



* 13桁 Airline 2 of 5 を無効にする

MSI Plessey

MSI Plessey の読取り



MSI Plessey を有効にする



* MSI Plessey を無効にする

MSI Plessey チェックデジットの検査



* チェックデジットを検査しない



1桁チェックデジットを検査する — スキャナは有効なモジュラス 10 チェックデジットのある MSI Plessey のみ読取ります。



2桁チェックデジットを検査する — スキャナは有効なモジュラス 10/10 チェックデジットのある MSI Plessey のみ読取ります。

MSI Plessey チェックデジットの送信



チェックデジットを送信する — チェックデジットを検査する場合のみ使用できます。



* チェックデジットを送信しない

UK Plessey

UK Plessey の読取り



UK Plessey を有効にする



* UK Plessey を無効にする

UK Plessey チェックデジットの送信



チェックデジットを送信する



* チェックデジットを送信しない

UK Plessey [A]を[X]に変換



A を X に変換して送信する



* A を X に変換して送信しない

Telepen

Telepen の読取り



Telepen を有効にする



* Telepen を無効にする

Telepen フル ASCII フォーマット



Telepen (フル ASCII) を有効にする



* Telepen (フル ASCII) を無効にする

GS1 DataBar (旧 RSS)

注 GS1 DataBar の括弧付きの送信や AI の編集には対応していません。

ダブルボーダー要求



ダブルボーダー要求を有効にする — GS1 Databar には、しばしば大きめの空白が見受けられるため、この機能を有効にすることをユニテックは推奨します。



* ダブルボーダー要求を無効にする

GS1 DataBar Omnidirectional の読取り



GS1 DataBar Omnidirectional を有効にする



* GS1 DataBar Omnidirectional を無効にする

GS1 DataBar Omnidirectional チェックデジットの送信



* GS1 DataBar Omnidirectional チェックデジットを送信する



GS1 DataBar Omnidirectional チェックデジットを送信しない

GS1 DataBar Omnidirectional アプリケーション ID (AI) の送信



* GS1 DataBar Omnidirectional アプリケーション ID を送信する — アプリケーション ID である「01」を送信します。



GS1 DataBar Omnidirectional アプリケーション ID を送信しない

GS1 DataBar Omnidirectional コード ID の送信



* GS1 DataBar Omnidirectional コード ID を送信する — コード ID である「je0」を送信します。



GS1 DataBar Omnidirectional コード ID を送信しない

GS1 DataBar Limited の読取り



GS1 DataBar Limited を有効にする



* GS1 DataBar Limited を無効にする

GS1 DataBar Limited チェックデジットの送信



* GS1 DataBar Limited チェックデジットを送信する



GS1 DataBar Limited チェックデジットを送信しない

GS1 DataBar Limited アプリケーション ID (AI) の送信



* GS1 DataBar Limited アプリケーション ID を送信する – アプリケーション ID である「01」を送信します。



GS1 DataBar Limited アプリケーション ID を送信しない

GS1 DataBar Limited コード ID の送信



* GS1 DataBar Limited コード ID を送信する – コード ID である「01」を送信します。



GS1 DataBar Limited コード ID を送信しない

GS1 DataBar Expanded の読取り



GS1 DataBar Expanded を有効にする



* GS1 DataBar Expanded を無効にする

GS1 DataBar Expanded コード ID の送信



* GS1 DataBar Expanded コード ID を送信する – コード ID である「]e0」を送信します。



GS1 DataBar Expanded コード ID を送信しない

ISBT-128

ISBT-128 の読取り



ISBT-128 を有効にする



* ISBT-128 を無効にする

ISBT-128 特別な送信モード



ISBT 特別送信を有効にする — ISBT-128 の仕様書 3.5.2 章に記載されている特別な送信モードを使用します。この送信方法を用いてユーザーは Code 128 のチェックデジットの精度を自分で確認できます。



* ISBT 特別送信を無効にする

ISBT-128 ID



ISBT ID を送信しない — 読み取った ISBT-128 にドネーション ID ナンバー (DIN) が含まれていない場合は、先頭の 2 文字を除いた状態で送信されます。



* ISBT ID を送信する

ISBT-128 定義済み連結モードの使用



定義済み連結モードを有効にする — 適切な[定義済み連結モード](#) (75 ページ) を選択してください。ユーザー定義連結モードとは同時に使用できません。



* 定義済み連結モードを無効にする

ISBT-128 ユーザー定義連結モードの使用



ユーザー定義連結モードを有効にする — [ユーザー定義連結モード](#) (76 ページ) を適切に設定してください。定義済み連結モードとは同時に使用できません。



* ユーザー定義連結モードを無効にする

ISBT-128 定義済み連結モードの選択



* ドネーション ID ナンバー + AB0/Rh (D) 血液型 = \acute{a} + =% 連結



ドネーション ID ナンバー + ドナーID ナンバー = \acute{a} + &; 連結



ドネーション ID ナンバー + 機密ユニット除外状態 = \acute{a} + &! 連結



製品コード + 有効期限 (フォーム 1) =< + => 連結



製品コード + 有効期限 (フォーム 2) =< + &> 連結



製品コード + 有効期限 (フォーム 3) &< + => 連結



製品コード + 有効期限 (フォーム 4) &< + &> 連結

注 \acute{a} は「A~Z」および「0~9」です。

ISBT-128 連結バーコードの検索時間

ISBT-128 の連結モードを使用する際に、2 番目のバーコード検索するための時間を設定します。



* 0.1 秒間検索する



0.2 秒間検索する



0.3 秒間検索する



0.4 秒間検索する



0.5 秒間検索する



0.6 秒間検索する



0.7 秒間検索する

ISBT-128 ユーザー定義連結モード

次のバーコードを使用して、左右のバーコードの ISBT-128 ID をそれぞれ定義します。



(～) 左 ID の 1 文字目



(～) 左 ID の 2 文字目



(～) 右 ID の 1 文字目



(～) 右 ID の 2 文字目

例えば、左側の ISBT-128 の ID が「=G」で、右側の ISBT-128 の ID が「&a」である場合は、次のように設定します。

1. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。
2. **左 ID の 1 文字目** をスキャンします。
3. [コードバイト](#) (77 ページ) から **コードバイト 0** をスキャンします。
4. [コードバイト](#) (77 ページ) から **コードバイト 6** をスキャンします。
5. [コードバイト](#) (77 ページ) から **コードバイト 1** をスキャンします。
6. **左 ID の 2 文字目** をスキャンします。
7. [コードバイト](#) (77 ページ) から **コードバイト 0** をスキャンします。
8. [コードバイト](#) (77 ページ) から **コードバイト 7** をスキャンします。
9. [コードバイト](#) (77 ページ) から **コードバイト 1** をスキャンします。
10. **右 ID の 1 文字目** をスキャンします。
11. [コードバイト](#) (77 ページ) から **コードバイト 0** をスキャンします。
12. [コードバイト](#) (77 ページ) から **コードバイト 3** をスキャンします。
13. [コードバイト](#) (77 ページ) から **コードバイト 8** をスキャンします。
14. **右 ID の 2 文字目** をスキャンします。
15. [コードバイト](#) (77 ページ) から **コードバイト 0** をスキャンします。
16. [コードバイト](#) (77 ページ) から **コードバイト 9** をスキャンします。
17. [コードバイト](#) (77 ページ) から **コードバイト 7** をスキャンします。
18. [設定モード開始/終了](#) (12 ページ) をスキャンします。

以下は、ユーザー定義連結モードの有効/無効および上記の設定を一括で行なうためのバーコードです。

(左、 =G) + (右、 &a) を有効にする



(左、 =G) + (右、 &a) を無効にする



付録A. コードバイト



コードバイト 0



コードバイト 1



コードバイト 2



コードバイト 3



コードバイト 4



コードバイト 5



コードバイト 6



コードバイト 7



コードバイト 8



コードバイト 9

付録B. シリアルホストコマンド

シリアル通信を使用して、ホストから様々なコマンドをスキャナに送信することができます。ホストから送信するコマンドのフォーマットは以下の通りです。

コマンド構文	[STX]	コマンド	[ETX]
16 進コード	0x02		0x03

- STX : シリアルホストコマンドの開始を表します。必ず STX を先頭に付加します。
- コマンド : シリアルホストコマンドそのものを表します。シリアルホストコマンドのパラメータは、各設定バーコードの下部に記載されています。例えば、設定値の初期化を表すコマンドは「999998」です。
- ETX : シリアルホストコマンドの終了を表します。必ず ETX を最後に付加します。

ホストから送信されたコマンドの応答として、スキャナは ACK または NAK をホストへ返します。連続してスキャナにコマンドを送信する場合は、必ずスキャナの応答を待ってから次のコマンドを送信します。スキャナが応答する前に送信されたコマンドは無視されます。

コマンド構文	[ACK]
16 進コード	0x06

- ACK : コマンドの受信に対して ACK を返した場合、スキャナは正常にコマンドを処理します。

コマンド構文	[NAK]
16 進コード	0x15

- NAK : コマンドの受信に対して NAK を返した場合、スキャナはコマンドを処理しません。

設定コマンド

本書に掲載されているすべての設定バーコードはシリアルホストコマンドとして送信することができます。スキャナの設定は、設定モード中に行ないます。設定モードの開始と終了には、「設定モード開始\終了」コマンドが必要です。

設定モード開始/終了 : [STX]999999[ETX]

設定モード中は、スキャナ本体の LED ランプが赤と緑に交互に点滅し続けます。コマンドの受信がなく 20 秒経過するとタイムアウトし、スキャナは NAK を返して設定モードを終了します。設定途中のコマンドはすべて破棄されます。

次ページにていくつかの設定例を掲載します。

設定コマンド（続き）

（例）設定値の初期化

[工場出荷標準値](#)（21 ページ）のコマンドは「999998」です。

1. [STX]999999[ETX]
2. [STX]999998[ETX]
3. [STX]999999[ETX]

（例）バーコードの可読最小長を 8 文字以上に変更する

[すべてのバーコードの可読最小長](#)（42 ページ）のコマンドは「901800」です。

1. [STX]999999[ETX]
2. [STX]901800[ETX]
3. [STX]0[ETX]
4. [STX]0[ETX]
5. [STX]8[ETX]
6. [STX]999999[ETX]

スキャナ動作制御コマンド

いくつかのコマンドでスキャナの動作を制御することができます。これらのコマンドには[STX]と[ETX]は必要ありません。

動作停止コマンド



D/E コマンドを有効にする — スキャナは「D」コマンド（0x44）を受信するとすべての動作を停止します。「E」コマンド（0x44）を受信すると、ふたたび動作を開始します。



* **D/E コマンドを無効にする**

レーザー照射コマンド



DC2 コマンドを有効にする — スキャナは「DC2」コマンド（0x12）を受信するとレーザーの照射を開始します。レーザー照射は 5 秒でタイムアウトし停止します。バーコードの読取りにはトリガーボタンのクリックが必要です。トリガーボタンのクリック無しでバーコードの読取りを行ないたい場合は、[自動スキャン](#)（22 ページ）を有効にしてください。



* **DC2 コマンドを無効にする**

付録C. コードタイプテーブル

コードバイト	コードタイプ
001	すべての UPC/EAN/JAN
002	UPC-E
003	EAN-8 / JAN-8
004	UPC-A
005	EAN-13 / JAN-13
080	Code 39
081	Codabar (NW7)
082	Interleaved 2 of 5 (ITF)
083	Code 128
084	Code 93
091	MSI Plessey
092	Code 11
093	IATA 2 of 5
094	Matrix 2 of 5
095	Telepen
096	UK Plessey
101	GS1 DataBar Omnidirectional
102	GS1 DataBar Limited
103	GS1 DataBar Expanded

付録D. ASCII 文字テーブル

コードバイト	16 進数	Code 39 フル ASCII エンコード文字	キーストローク
000	0x00	%U	CTRL 2
001	0x01	\$A	CTRL A
002	0x02	\$B	CTRL B
003	0x03	\$C	CTRL C
004	0x04	\$D	CTRL D
005	0x05	\$E	CTRL E
006	0x06	\$F	CTRL F
007	0x07	\$G	CTRL G
008	0x08	\$H	CTRL H
009	0x09	\$I	CTRL I
010	0x0A	\$J	CTRL J
011	0x0B	\$K	CTRL K
012	0x0C	\$L	CTRL L
013	0x0D	\$M	CTRL M
014	0x0E	\$N	CTRL N
015	0x0F	\$O	CTRL O
016	0x10	\$P	CTRL P
017	0x11	\$Q	CTRL Q
018	0x12	\$R	CTRL R
019	0x13	\$S	CTRL S
020	0x14	\$T	CTRL T
021	0x15	\$U	CTRL U
022	0x16	\$V	CTRL V
023	0x17	\$W	CTRL W
024	0x18	\$X	CTRL X
025	0x19	\$Y	CTRL Y

ASCII 文字テーブル (続き)

コードバイト	16 進数	Code 39 フル ASCII エンコード文字	キーストローク
026	0x1A	\$Z	CTRL Z
027	0x1B	%A	CTRL [
028	0x1C	%B	CTRL \
029	0x1D	%C	CTRL]
030	0x1E	%D	CTRL 6
031	0x1F	%E	CTRL -
032	0x20	スペース	スペース
033	0x21	/A	!
034	0x22	/B	"
035	0x23	/C	#
036	0x24	/D	\$
037	0x25	/E	%
038	0x26	/F	&
039	0x27	/G	'
040	0x28	/H	(
041	0x29	/I)
042	0x2A	/J	*
043	0x2B	/K	+
044	0x2C	/L	,
045	0x2D	-	-
046	0x2E	.	.
047	0x2F	/	/
048	0x30	0	0
049	0x31	1	1
050	0x32	2	2
051	0x33	3	3
052	0x34	4	4
053	0x35	5	5

ASCII 文字テーブル (続き)

コードバイト	16 進数	Code 39 フル ASCII エンコード文字	キーストローク
054	0x36	6	6
055	0x37	7	7
056	0x38	8	8
057	0x39	9	9
058	0x3A	/Z	:
059	0x3B	%F	;
060	0x3C	%G	<
061	0x3D	%H	=
062	0x3E	%I	>
063	0x3F	%J	?
064	0x40	%V	@
065	0x41	A	A
066	0x42	B	B
067	0x43	C	C
068	0x44	D	D
069	0x45	E	E
070	0x46	F	F
071	0x47	G	G
072	0x48	H	H
073	0x49	I	I
074	0x4A	J	J
075	0x4B	K	K
076	0x4C	L	L
077	0x4D	M	M
078	0x4E	N	N
079	0x4F	O	O
080	0x50	P	P
081	0x51	Q	Q

ASCII 文字テーブル (続き)

コードバイト	16 進数	Code 39 フル ASCII エンコード文字	キーストローク
082	0x52	R	R
083	0x53	S	S
084	0x54	T	T
085	0x55	U	U
086	0x56	V	V
087	0x57	W	W
088	0x58	X	X
089	0x59	Y	Y
090	0x5A	Z	Z
091	0x5B	%K	[
092	0x5C	%L	\
093	0x5D	%M]
094	0x5E	%N	^
095	0x5F	%O	_
096	0x60	%W	`
097	0x61	+A	a
098	0x62	+B	b
099	0x63	+C	c
100	0x64	+D	d
101	0x65	+E	e
102	0x66	+F	f
103	0x67	+G	g
104	0x68	+H	h
105	0x69	+I	i
106	0x6A	+J	j
107	0x6B	+K	k
108	0x6C	+L	l
109	0x6D	+M	m

ASCII 文字テーブル (続き)

スキャン値	16 進数	Code 39 フル ASCII エンコード文字	キーストローク
110	0x6E	+N	n
111	0x6F	+O	o
112	0x70	+P	p
113	0x71	+Q	q
114	0x72	+R	r
115	0x73	+S	s
116	0x74	+T	t
117	0x75	+U	u
118	0x76	+V	v
119	0x77	+W	w
120	0x78	+X	x
121	0x79	+Y	y
122	0x7A	+Z	z
123	0x7B	%P	{
124	0x7C	%Q	
125	0x7D	%R	}
126	0x7E	%S	~
127	0x7F		Backspace

付録E. 拡張キーコードテーブル

コードバイト	拡張キー
128	↑
129	↓
130	→
131	←
132	Insert
133	Delete
134	Home
135	End
136	Page Up
137	Page Down
138	右 Alt
139	右 Ctrl
140	未定義
141	未定義
142	Enter (テンキーパッド)
143	/ (テンキーパッド)
144	F1
145	F2
146	F3
147	F4
148	F5
149	F6
150	F7
151	F8
152	F9
153	F10

拡張キーコードテーブル（続き）

コードバイト	拡張キー
154	F11
155	F12
156	+（テンキーパッド）
157	－（テンキーパッド）
158	*（テンキーパッド）
159	Caps Lock
160	Num Lock
161	左 Alt
162	左 Ctrl
163	左 Shift
164	右 Shift
165	Print Screen
166	Tab
167	Shift Tab
168	Enter
169	Esc
170	左 Alt メーク
171	左 Alt ブレーク
172	左 Ctrl メーク
173	左 Ctrl ブレーク
174	左 Alt + 1 文字
175	左 Ctrl + 1 文字

注 「メーク」は、キーを押しっぱなしにします。「ブレーク」は、押しっぱなしのキーを解放します。